

社会教育委員ニューズレター 第8号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
事務局 佐賀県民環境部まなび課内

平成30年度九州ブロック社会教育委員連絡協議会運営委員会・理事会

平成30年10月18日、熊本市で開催された。

平成31年度佐賀大会の開催概要について、本県の上野会長及び事務局から説明を行い、概ね承認された。

また、次回大会開催県である本県の上野会長が平成31年度九州ブロック社会教育委員連絡協議会会長に選出された。

第48回九州ブロック社会教育研究大会熊本大会

期日：平成30年10月18日～19日
会場：市民会館シアースペースホーム

夢ホール他（熊本市）

主題：夢や希望「あふれる思い」ば、かたらんね！～社会教育でつながる九州の絆～



開会行事の様子

分科会（10月18日）

第3分科会「社会教育委員の役割」において、佐賀市社会教育委員副委員長の平川 哲男氏による事例発表が行われた。

まちづくり協議会を母体とした地域づくり活動の経緯や、現在の取組等についての報告とともに、

成果として住民の地域活動参加の機会が増えたことが挙げられた。

全体会（10月19日）

「熊本地震からの創造的復興」と題して、熊本県知事の蒲島郁夫氏による記念講演があり、夢あふれる人づくり・地域づくりを進めていきたいと思います」と参加者に呼びかけられた。

閉会行事では、次期開催県あいさつとして本県上野会長からの参加の呼びかけとともに、佐賀県参加者によるPRを行い、会場から盛大な拍手をいただいた。



佐賀県参加者による次年度大会PR

平成30年度県社会教育委員実践研修会・県公民館研究会合同研修会

期日：平成31年1月24日

会場：県立生涯学習センター（佐賀市）

主題：未来を拓く社会教育を考える
～これから何をすべきか、何ができるのか～

今年8月に九州地区社会教育研究大会を九州地区公民館研究大会と併せて開催することを見据え、本研修会も県公民館連合会との合同で開催した。

基調講演

演題：「未来を拓く社会教育を考える
～社会教育の原点にもつ～」

講師：全国社会教育委員連合会前会長

東北福祉大学大学院教授

大橋 謙策 氏

昨今、住民による地域づくりや公民館の役割が注目されるようになったことを踏まえ、戦後社会教育の原点である「公民」形成の理念や公民館構想を紐解きながら、社会教育委員の役割はどのようなものなのかのお話をされた。

住民と行政とのパイプ役の他、教育計画策定への関与等、社会教育委員の役割について多くの示唆を得ることができ、8月の合同大会に向けての指針ともなる講演となった。



講師の大橋先生

ミニパネルディスカッション

4名のパネリストの各立場から、社会教育に関わる現状と課題をお話しいただいた。

これからの地域づくり・人づくりのために、私たちは何をすべきか、また、何をすることができているのかを再認識するための問題提起として、8月の大会につなげていきたい。

コーディネーター 上野 景三会長
スーパバイザー 大橋 謙策氏
パネリスト

佐賀市公民館支援課長 村上 正氏

佐賀市立鍋島中学校長

中野 義文氏

佐賀市社会教育委員・佐賀市立西戸

賀公民館長 木原 久美子氏

唐津市子育て支援情報センター長

山口 ひろみ氏

平成31年度合同大会説明

合同佐賀大会準備委員会事務局より、8月の合同佐賀大会を多くの関係者に知っていただくため概要の説明を行った。(大会テーマ期日等については巻末に掲載)

合同研修会アンケートから

「大橋氏への質問」

人と人をどうつなげていけばいいか。社会教育委員として今後何をすればいいのか。文科省が推進しているコミュニケーションスクールが思うように進んでいないように思うが、それについてどう考えるか。公民館施設の使用料を住民は払

わないといけないのか。

「選択的土着民」の「選択的」という部分を教えてほしい。

地域で子どもとどうつながるか。みんなが得意な方法は。

今日では自己中心的な考え方が先行し、地域社会に目を向け支え合う認識が薄い。地域社会づくりを喚起するには、どうすればいいか。

「大橋氏からの回答」

I、子ども・青年の発達の歪みへの取り組み

2005年に東京都生涯学習審議会は「子ども・若者の「次世代を担う力」を育むための教育施策のあり方について」「地域教育プラットフォーム」構想を推進するための教育行政の役割」を答申しました。

これは、1970年代の「学校教育」の整備に関する研究、実践を踏まえ、それを今日的に再編成しようとしたものです。

この構想が、後に文部科学省の「学校支援地域本部事業」、さらに現在の「地域学校協働本部事業」へと発展します。

「コミュニティスクールも「学校支援地域本部事業」も、「学校」の枠組みの中で計画、予算取りが行われています。そこが大きなネットワークです。

学校教育行政、従来の社会教育行政とは別の「第3の地域教育行政」を確立し、地域での全世代交流型の、地域人材を活用して子ども・青年の多様な社会体験的活動を展開すべきです。学校の教員は関わってもいいですが、基本は地域の人材が企画、実施するべきですし、それを支援する「地域教育支援課」あるいは「地域教育課」といった教育行政部局が担うことが必要です。

そうすれば、子ども・青年は学校の教員、自身の親以外の地域の多様な大人と触れ合うことにより、人間関係・社会関係上の礼儀、知識、方法においても、キャリアデザイン形成上でも、多様な学びの機会になります。

また、親自体もこれらの活動の中で、自分の子ども、青年を客観視することが出来るようになりま

Ⅱ、「選択的土着民」をより詳しく単にその地に生まれただけの“土着民”では、自動的に地域を愛し、地域の担い手になれるわけではない。その地に生まれ、かつその地を愛し、その地を豊かにしたいと思ひ、願ひ、あるいはその地に産まれていなくても意識してその地に住むことを「選択」した、主体的に地域づくりに参画しようとした“選択”した住民のことです。

Ⅲ、公民館の使用料の件

公民館等の社会教育施設は、住民の学習権を豊かに保障するという立場から考えれば、学習権の条件整備の一環として「無料」ということが望ましいとは思いますがそれは理念的にも、法制度的にも絶対的なものではありません。

その地域、地域の住民の考え方、行政の考え方により取り決めていく必要があります。

したがって、社会教育委員や公民館運営審議会委員の方々がどのように考え、論議したのか、その考え方、力量が問われることになります。

「ここでも、“選択的土着民”の意味を考えてみる必要があります。」

「各パネリストへの質問及び回答」

紙面の都合により一部のみの掲載としています。

《村上氏へ》

社会教育課との役割分担、具体的な取組み、今後の展望について詳しく知りたい。

（回答）公民館支援課は佐賀市立公民館に関わるすべての業務を所管し、社会教育課は

佐賀市の社会教育の振興が大きな役割です。必要に応じて情報共有等を行います。過度を過ぎると効率性が低下してしまつ点は考慮しています。現段階では、支障は生じていないと思ひます。佐賀市の公民館の特性として、運営主体はあくまでそれぞれの公民館ですので、今後も各公民館の運営がスムーズに行えるサポート体制を充実させていきたいと考えています。

《中野氏へ》

学校では、子どもの変化にどう向き合っているか。地域に何を望んでいるか。

（回答）学校の力だけで子どもを育てることは困難になっています。（いじめ問題・不登校の増加・コミュニケーション不足等）社会教育委員さんは学校に来て、気になることもいいことも、私たちに伝えてほしい。教員は地域で活躍している子どもたちのことを知らない。家庭や地域でも大きく考えてもらいたい。

《木原氏へ》

地域住民の青少年づくり、人みがきに公民館としてできることはどんなことが。



パネリストの村上氏、中野氏

（回答）佐賀市の「子どもへのまなび運動」が始まり10年。この運動に沿って体験活動などに地域の団体と協働で取り組んでいます。大学生の関わりも大きく、子どもたちの参加も増えています。子どもたちにも、企画や学校内のPRなど、出番や役割をつくり活躍してもらっています。地域での体験活動などは、今後の必要性等については、児童の保護者を対象にアンケートを取り、その結果を元に、地域で研修会を開きました。現状を分析しながら今後の方向性を探りたいと思ひます。



パネリストの木原氏、山口氏

【シリーズ】我が市町の社会教育委員活動(Ⅳ)

伊万里市社会教育委員会会議について

伊万里市 生涯学習課生涯学習係

伊万里市の現状

現在、本市においては、人口減少に歯止めがかからない状況にあり、若者の定着に必要な「しごとづくり」や、地域を支える「ひとづくり」、市民と連携した協働による魅力ある「まちづくり」を推進していくことが課題となつています。

伊万里市の社会教育委員

本市の社会教育委員は、学校教育・社会教育・家庭教育などの関係者による10名で組織されています。平成30年度の改選で全10名(男性6名、女性4名)中8名が新任委員となりました。

会議について

会議は年1回開催しており、平成30年度は8月22日に開催しました。辞令交付の後、委員長、副

委員長の選出があり、新たな体制のもとでのスタートとなりました。会議には、教育長や教育委員会の部課長も出席し、議題として、関係各課の重点事業(施策)や、毎年作成している『平成30年度伊万里市の教育』の説明などを行い、委員からは活発な意見・提案等をいただきました。

現在、年1回の会議開催にとどまっております。有意義な会議となるよう、今後の会議の在り方等について検討していきたいと考えています。



「子ども観光ガイド育成事業」にも取り組んでいます

神埼市の社会教育委員活動

神埼市 社会教育課 松尾 昭典

社会教育委員は、社会教育に関

する年間の計画の立案について、教育委員会に助言をする役割を果たしています。また、視察研修により現状等を把握しながら協議検討を図っています。

委員は、学校教育や社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う方に委嘱し、社会教育に知見を有する方々の知識を社会教育行政に反映させております。

社会教育委員の構成

社会教育委員は、10名で、学校教育関係者2名(小・中学校)、社会教育関係団体関係者8名(自治公民館、女性団体、文化連盟、スポーツ推進委員、青少年団体、子ども悩み相談員、学識経験者)で構成されています。

任期は2年とし、再任を妨げないとしております。

社会教育委員の会議状況

社会教育委員会は、年3回実施しており、第1回目は、社会教育事業の年間計画に対して社会教育委員から意見をいただくようになっています。

第2回目は、市内社会教育施設の現地視察を実施しています。平成32年度に図書館移転の計画が

あるので、今年度は、移転に伴う意見をいただくため実施しました。第3回目は、社会教育事業の実施状況及び成果と課題について報告し、次年度の事業につなげていくようにしています。

その他の研修会

年3回の委員会以外にも、社会教育について知識・技術を高めるため、県内外研修に積極的に参加していただいています。



市内の図書館2か所を視察

江北町の社会教育委員活動

江北町 社会教育委員 土井 力

江北町の社会教育委員

江北町の社会教育委員は、小中

学校校長・小学校PTA会長・中学校育友会長・体育協会副理事長・文化協会理事長・婦人会副会長・公民分館長会長の8名で構成されています。

また、江北教育施策実施計画に基づき5つの項目を定めこれに沿って活動を行っております。

一、『生きる力』を身につけ、バランスのとれた児童生徒を育む学校教育の推進。

二、教育活動を支える教育環境の整備・充実。

三、社会教育・生涯学習の振興、歴史や文化の継承と保存活用。

四、夢・感動と活力を生むスポーツの振興。

五、子供子育て支援事業の推進。

今までの取組
生涯学習としては、青少年育成事業、文化協会発表会（子供体験教室等）、全国高等学校総合文化祭プレ大会（将棋部門）、成人式式典。

生涯スポーツでは、ふれあいウォーキング会、総合スポーツクラブ（がばい余暇クラブ）、B&Gフール事業による（ライフセービング教室・水辺の安全教室）、町民体育大会等行っています。

青少年育成町民活動

青少年育成町民運動として、あいさつ運動、防犯パトロール、青年の主張大会などを行っています。今年1月より青パト車を導入し、子どもたちの下校時に、防犯推進委員、町内各種団体による巡回パトロールを行っております。

公民館事業

上分区で取り組んだ『課題解決支援講座』では、地域活動の進め方や自治会の在り方を考える講座を行い、今年度竣工する『みんなの公園』を含めた区の将来像とまちづくり等の支援を行っています。

また、歴史探訪として、『伊万里の歴史と自然を訪ねて』をテーマに身近な佐賀の歴史を学ぶ事業や、明治3年まで継承されていた流鏝馬が途絶えていたものを、平成26年に子ども流鏝馬として復活させ協力推進も行っていきます。

今後の予定

江北町総掛りとなって子どもたちを育てていくために、『地域とともにある学校づくり』に有効なツールとして、『コミュニティスクール』が、平成31年4月より導入されることとなっています。江北町

において学校は『子どもの学びの場』のみならず、地域コミュニティの核となりますし、江北町全体での生涯教育の場として、地域活性化を促進したいと考えています。



子ども流鏝馬

太良町の社会教育委員活動

太良町 社会教育委員

坪田 順子

太良町の現状

太良町には、多良岳と有明海の自然の恵みを受けて育つ多くの特産物があり、潮の満ち引きが体感できる海中鳥居（大魚神社）は多くの観光客で賑わっています。

本町の課題は、少子高齢化による人口減少のため地域の活力の低

下が進んでいることです。そこで、社会教育の役割の重要性が問われています。

太良町の社会教育委員

社会教育委員は、6名で構成し、年3回の委員会開催と県内外の研修会への参加を行っています。

社会教育委員活動

毎年太良町では、有明海で家族や友達等と親しんでもらえるように、『マリンスポーツフェスティバル』が太良町B&G海洋センター艇庫で開催されています。

青く澄みきつた空と一体化したよつに穏やかな有明海に町内外より129名の参加者が集い、思う存分マリンスポーツを楽しんでいる姿に感動を覚えました。一度、この醍醐味を味わったならば毎年参加したいと思えるはずです。

マリッジットで大海原を風切って走り去る少年たち、思うようにいかないカヌーに汗をかきながら挑戦している女の子などの姿に遊びを満喫している様子が窺えました。

乗り物を充分楽しんだ後は、スイカ割り。見事に割られたスイカを美味しそうに頬張る顔は、充実

感で溢れていました。来年は、もっと大きく成長した姿で訪れることでしょう。



バナナボート体験

海とともに子どもたちの健全な育成の活動を支援していくことはとても大切なことだと思えます。町内外を問わず多くの方の参加をお待ちしています。

上峰町の社会教育委員活動

上峰町 生涯学習課

上峰町の現状

上峰町は今年度、町制施行30周年を迎え、一年を通して様々なイベントを開催し、その最後のイベントとして、来る3月31日には、「NHKのご自慢」を上峰町民センターホールで開催します。

上峰まちづくりプランの将来像実現の分野目標であり、上峰町教育大綱の基本理念である「人が輝き文化が薫る教育・文化のまち」の実現に向け、生涯学習・社会教育の充実に取り組んでいます。

社会教育委員の構成

上峰町の社会教育委員は、8名で、社会教育関係より5名（公民分館長会代表、文化協会代表、子どもクラブ育成協議会代表、体育協会代表、老人クラブ代表）家庭教育関係より3名（民生児童委員協議会代表、小学校代表、中学校代表）で構成されています。

任期は2年とし、再任を妨げないとしております。

社会教育委員の会議状況

会議は、1年に1回実施し、主な内容としては、「平成29年度生涯学習係事業実績及び平成30年度事業計画について」「平成29年度生涯スポーツ係事業実績及び平成30年度事業計画について」「平成29年度文化課事業実績及び平成30年度事業計画について」となっています。

その他について

10月に熊本市国際交流会館で

行われた九州ブロック社会教育研究大会熊本大会・熊本県公民館大会合同大会」の分科会「社会教育委員の役割」に参加し、事例発表に耳を傾けたことで、町づくりにおける社会教育委員の役割について再確認しました。また、この1月には「佐賀県社会教育委員実践研修会・佐賀県公民館研究大会合同研修会」にも参加しました。

第41回全国公民館研究集会佐賀大会 第49回九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会 第70回九州地区公民館研究大会

○大会テーマ

「社会教育や公民館の隘路あいろを拓く」

くがばい つながろー 人と人々

○期日および日程

新元号元年8月29日（木）

…全体会

30日（金）

…分科会

○会場 佐賀市文化会館他5会場（佐賀市内）

◎多数のご参加をお待ちしております。

次回「シリーズ」我が市町の社会教育委員活動」予告

次回の執筆担当市町は、鹿島市・嬉野市・吉野ヶ里町・大町町となっております。

本年6月初旬をめどに、原稿の執筆をお願いします。

各市町の特色ある社会教育委員活動や委員の会議での協議内容、委員の社会教育委員活動に対する思いなど、内容はお任せします。

執筆は、可能な限り社会教育委員の方にお願ひしますが、難しい場合は、社会教育委員担当課も可とします。

なお、全て文字だけによる記載ではなく、活動や記述に関連する写真または図表等を1枚（キャプションも付けて）添付していただくと、読みやすいようです。

県まなび課のホームページに「ニューズレター（第1号）第8号」を掲載しています。「佐賀県まなび課」で検索。研修資料等に御活用ください。